

渤海沿岸におけるズグロカモメ繁殖の新分布

梁余(遼寧鳥類研究センター)・黄啓安(世界野生生物基金)

訳 福井和二

ズグロカモメ (*Larus saundersi*) は世界の希少鳥類で、近年我が国の江蘇省塩城海岸と遼寧省盤錦の双台子河河口において彼らが繁殖していることがわかった。現在世界において現存するカモメ 43 種中、ズグロカモメは最も個体数の少ない種といわれ、現存個体数 2000 内外とされている。かつて、人々はこのカモメについては十分に知られていなかった。(最近、新しい繁殖地が見つかり、生態の研究はすこしづつ完成に向かっていっている) そのため、この種がいまだに、我が国の重要保護野生動物に認められていない。ズグロカモメの個体数、繁殖地分布などの状況をはっきりさせたいので、去年に続いて遼寧省盤錦湿地においてズグロカモメの繁殖生態の研究を行っていたところ、今年 6～7 月、我が国の林業部と世界野生生物基金による共同研究により、我が国の隠れたズグロカモメの繁殖地の調査を進めることとなった。現在、明らかなのは、江蘇省塩城沿海部と遼寧省盤錦双台子河口にあるズグロカモメの繁殖地で、この 2ヶ所間の渤海沿岸で、緯度上の中間地点において生態環境が類似している場所を、我々は 6 月 2 日より調査を開始し、7 月 4 日に終了した。調査は南から北へ山東省から河北省を経て遼寧省へ向かって進んだ。今回の調査において、遼寧、河北、山東の域内の海岸を全て見て歩き、ズグロカモメの繁殖群を発見し、巣、卵を確認することにより、多くの人々に満足される結果が得られた。新繁殖地の発見は、我が国におけるズグロカモメの繁殖分布状況を、さらに明らかにすることができ、同時に、河北、山東両省における鳥類繁殖の新記録を加えることができた。

調査結果を以下の通り報告する。

1. 調査区域および方法

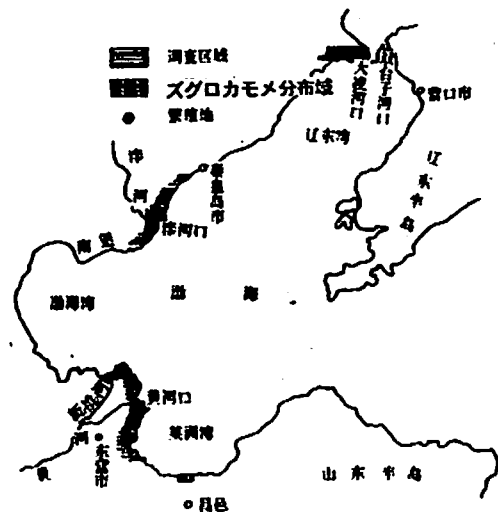
1.1 調査区域の確定

まず、地図および衛星画像解析と地元住民の聞き取り情報により、対象となる海岸線の状況を想定、岩礁地域を除外し、砂浜、干潟あるいは開発中の泥質の干潟などの地域を選出した。その後、ズグロカモメの生態、とりわけ営巣環境の知識を有する調査員によってそれらの地域を調査した。その調査区域を図 1 に示す。

1.2 調査方法

確定した調査区域では、調査員が浜辺に立ち入り、45 倍望遠鏡を用いて、広大な地域をできるかぎり観察することとした。歩いて立ち入ることが困難な河口地域は船に乗って海上より観察した。この調査中、発見したズグロカモメの成鳥、幼鳥の個体数、集団繁殖場所、巣と卵の計測などを行い記録した。

図 1 調査区域、ズグロカモメ繁殖地分布図



2. 調査結果

2.1 ズグロカモメの個体数と分布

ズグロカモメの個体数と分布を表1に示す。

表1 渤海沿岸におけるズグロカモメの個体数

	観察日	観察場所	成鳥	亜成鳥	合計
山東省	6月4日	広利河河口	200		200
	6月5日	南海鋪	8		8
	6月6日	孤島林場黄河上空	6	1	7
	6月7日	一千二林場 旧黄河	9	1	10
	6月8日	一千二林場上空	2		2
	6月9日	刁口海岸	181	3	184
	6月10日	黄河河口	11	1	12
	6月11日	昌邑竈戸	4		4
		計	421	6	427
	河北省	6月20日	滦河河口	39	
6月22日		翔雲島林場上空	2		2
		計	41		41
遼寧省	6月26日	蝦庄子	2		2
	6月27日	大凌河河口	170	23	193
		計	172	23	195
		総計	634	29	663

遼寧省盤錦双台子河口の繁殖地を除き、渤海沿岸で新たに発見したズグロカモメの総個体数は成鳥634羽、亜成鳥29羽であった。そのうち、山東省において成鳥421羽、亜成鳥6羽、河北省で成鳥41羽、遼寧省で成鳥172羽、亜成鳥23羽であった。

2.2 ズグロカモメ繁殖地の新分布

今回の調査において新しく発見された営巣地域は4ヶ所である(図1)。

2.2.1 山東省東営市新挑河河口の西岸において6月9日2巣を発見、1巣には卵1個、他の1巣には卵2個を発見した。3個の卵は共に色が新鮮で、平均重量は32.0gであった。いずれも、営巣されていたのは、大潮になると海水に曝される可能性のある場所で、植被は碱蓬(*Suaeda heteroptera*)*1であり、当然碱蓬の茎が巣材として使用されていた。上空には約120羽のズグロカモメが飛翔していた。

2.2.2 山東省東営市広利河と淄脉河の合流点における繁殖地で7巣18卵を見つけ、7巣中、3卵のものが5巣、2卵のものが1巣、1卵のものが1巣であった。卵の色は新鮮で、計量することができた14卵の平均重量は33.2gであった。営巣されていた場所はスゲ類の生えた泥質の浜、あるいは碱蓬の生えた塩性の土壌、また泥の上に散在するヨシの束の上などであった。地面は乾燥しており、最近潮に冠水された形跡は見当たらなかった。巣材の多くはスゲで碱蓬の茎も使用されていた。上空には50羽ほどのズグロカモメが見られた。

2.2.3 河北省滦河河口の繁殖地で6月20日、4巣10卵と2羽の雛を見つけた。4巣中、6卵が入っていたものが1巣(内1卵は破損して巣の外にあった)、2卵のものが1巣、1卵のもの

のが 1 巢、1 卵 2 雛のものが 1 巢であった。計測した 9 卵の平均卵重は 29.1g で、2 羽の雛の体重はそれぞれ、28.5g と 29.0g であり、まだ嘴の先に卵歯がついていた。営巣されていた場所は、滦河河口の北岸で一面の開けたところに、耐塩性の碱蓬、稗茅 (*Aeluropus littoralis*)²、補血草 (*Limonium bicolor*)³、などの雑草が生える泥土質の上で、潮の冠水のない場所である。巢材は枯れた碱蓬の茎、稗茅と茵陳蒿 (*Artemisia capillaris*)⁴ の茎などを使用している。

2.2.4 遼寧省大凌河河口西岸の繁殖地。6 月 28 日に 8 巢を発見したが、すでに雛は巣を離れており、見ることはできなかった。ただ、2 巢の周辺に新しい雛の糞が散在していた。営巣場所は開けた潮のつかない場所で、ヨシと碱蓬がまばらに生えた泥土質の乾燥した上にあり、巢材には枯れた碱蓬の茎が使われていた。上空に 36 羽のズグロカモメが飛んでおり、巣を守るため、我々を攻撃してきた。

3. 討論と提案

渤海沿岸の省や市は我が国の中では比較的経済的に豊かで、人の活動も活発な地域である。渤海は穏やかな長い海岸線を抱えている。しかし、ズグロカモメの繁殖に不適当な岩礁を除き、砂質の浜辺のほか、泥土質の海岸が非常に多く、水田や塩田、エビの養殖場等に使われている。現存するズグロカモメの繁殖に適切な海岸は様々な脅威に曝されている。ズグロカモメのように集団で繁殖する鳥類には、繁殖のために開けた大面積の臨海地域が必要なのである。埋め立てが進み、潮間帯を利用して営巣するズグロカモメは、そこで海から受ける潮風や、時には打ち寄せる海水の脅威を受ける。海から遠くなった埋め立て地には雑草が繁茂し、獣類の侵入や人の活動が増加して、ズグロカモメの繁殖地として利用されなくなる。以前、発表した潮間帯と隣接する埋め立て地の一部がズグロカモメの繁殖に好適な環境を作り出しているという研究結果は、そこが貴重なこの鳥のため、開発利用する土地のわずかな部分を保護にあてたためである。

山東省で発見された 2ヶ所の繁殖地は、現在の保護区の外にある。河北省滦河河口の繁殖地も保護区として設定されていない。遼寧省錦域内の大凌河河口西岸の繁殖地も双台子河河口国家級自然保護区と隣接しているながら、現在、効果的な保護措置はとられていない。筆者はズグロカモメの繁殖を保護するために、関係行政機関は、ズグロカモメの繁殖期間だけでも繁殖地の保護管理を強化すべきであることを提案する。

訳注

- *1 碱蓬 (*Suaeda heteroptera*) アカザ科、中国長江以北からロシア沿海地方にかけ分布する。アルカリ土壌に多く、北方では幼苗を食する。日本の図鑑 4 種では検索できなかった。
- *2 稗茅 (*Aeluropus littoralis*) 草丈 15~25cm のイネ科植物、長江以北の沿海各省、および西北地域の新疆、甘粛に分布、耐塩、耐アルカリ性の植物。
- *3 補血草 (*Limonium bicolor*) イソマツ科、草丈 20~70cm、河南、河北、山西、内蒙古、陝西、甘粛各省に分布。止血剤として薬用。
- *4 茵陳蒿 (*Artemisia capillaris*) キク科、草丈 50~100cm、東北各省に分布。